「審議会等の会議結果のお知らせ」
スポーツ推進審議会の会議結果について

令和４年３月２８日に開催しました審議会の概要は下記のとおりです。

記

１　開催日時　令和４年３月２８日（月）　１４時００分から１５時３０分
２　開催場所　佐賀市役所大財別館４階　第１会議室
３　出席者の氏名
〈佐賀市スポーツ推進審議会委員　１３名〉
林正博（会長）、伊東健児（副会長）、堤久美子、徳光清孝、藤原孝昭、吉永美紀、町田正直、山田力也、井手一雄、田中夏美、嘉村英哲、渡邊由美子、松本昌代
〈事務局〉
江川スポーツ振興課長、野田スポーツ振興課副課長兼管理係長、
吉谷スポーツコンベンション係長、水町スポーツ係長、前田スポーツ係主任、
平スポーツコンベンション係主事、副島スポーツ係主事
４　欠席者の氏名
時尾久美子、原和弘
５　傍聴者　なし
６　議題　「佐賀市スポーツ推進計画」について（資料１・２）
６　会議の公開又は非公開の別　公開
７　非公開の理由（会議を非公開とした場合に限る。）
８　傍聴者数（会議を公開した場合に限る。）　なし
９　発言の内容
◎「第２次佐賀市スポーツ推進計画」に沿った今年度の年間総括について、資料に沿って事務局より説明

【主な意見】
◎ビジネスパーソンのスポーツ推進について
・スポーツ実施率が低いが、来年度に向けて、どのような方向をイメージされているのか。

（事務局）
・令和３年度は、ビジネスパーソンを対象としたニュースポーツの体験教室を１件実施したが、参加者が１６名に留まっており、来年度は更に力を入れていく必要があると感じている。

◎女性のスポーツ推進について

・民間のスポーツ教室やクラブでは託児がないところが多いため、託児についての問題が解決できれば、女性のスポーツ実施率の向上につながるのではないか。
・託児施設の近くにスポーツ教室やクラブがあれば、継続的にスポーツができ、空き時間に少しだけ参加できるようなものがあれば理想だと思う。
・健康のために運動している人は、家でできる運動を知っても実施しない人が多い。
・公民館等での子育てサークルでは、母子保健推進員などが子どものお世話をしている。託児付きのスポーツ教室は、お母さんたちのストレス解消になり、スポーツ実施率も上がると思うので、託児付きスポーツ教室の出張サービスがあればよいのではないか。

（事務局）

・託児付きのスポーツ教室（子育てママのスポーツ教室）は、自宅で出来る運動を教えることで、子どもが寝ている間などの空き時間を使って運動してもらうために実施している。

◎高齢者スポーツの推進について

・スポーツ推進委員による佐賀市老人クラブ連合会へのニュースポーツ指導が行われているが、参加者からの地元への広がりがないように感じる。公民館での開催であれば参加のハードルが下がると思うので、スポーツ推進委員等の協力を得て、どんどん実施して欲しい。
・ニュースポーツ用具がないことも、ニュースポーツが広がらない理由でもあると思うので、貸出の促進を図ってはどうか。

◎障害者スポーツについて

・佐賀県パラスポーツセンターは、障害者の団体等が活用されているが、佐賀市の所有施設での利用状況はどうか。
・誰もが気軽に利用しやすい環境つくりを市報などで広報すれば、障害者の利用も増えるのではないかと思う。
・2024 国スポ・全障スポの後に、パラスポーツのトップ選手を招いての親善試合や体験会があれば、さらに身近に感じられ、すばらしさや大変さを分かっていただけると思う。
・桜マラソン等に車椅子マラソンの部門を作ることを検討してほしい。
・スポーツ少年団でも障害者と健常者の子どもが一緒にできるスポーツイベントや、障害者の子どもだけのスポーツ大会を計画している。
・放課後等デイサービスが佐賀市にもたくさん展開されているが、部屋の中でもできる運動や遊びを、提案・提供すれば、デイサービスの特色にもなって喜ばれるのではないか。

（事務局）

・諸富文化体育館で車椅子バスケットボール大会が開催されており、健康運動センターでは障害者や高齢者の体力づくり・健康づくりを施設運営の一つの柱にしている。
・障害がある人もない人も、一緒スポーツに親しめるような環境づくりが必要と捉えている。

◎スポーツボランティア登録制度について

・今現在の登録者数は、どの期間で募集されたのか。目標はどれぐらいに掲げているのか。
・登録者への案内実績はどれほどか。

（事務局）

・令和３年４月から開始し、令和３年度だけで 61 名の方が登録されている。
・さが桜マラソンには 3,000 人、2024 国スポ・全障スポ大会には 2,000 人が必要と推定されており、今後のスポーツ大会等で募集し、多くの方に登録いただくよう広めていきたい。
・スポテン佐賀 2021 や佐賀バルーナーズの運営補助スタッフ募集の案内をしている。
さが桜マラソンと 11 月の富士しゃくなげ湖ハーフマラソンへの案内を予定している。

◎佐賀バルーナーズとの連携について

・子どものスポーツの二極化解消について、佐賀バルーナーズは、忙しいと思うが、その中でどのように連携していくのか。

（事務局）

・令和４年３月２９日に佐賀県内の唐津レオブラックス、レオナイナーズと併せて３つのプロクラブと連携した佐賀県プロバスケットボール振興協議会が設立される。
・協議会の中で、3 チームの選手、コーチを各地区の学校、幼稚園・保育園等に派遣し、スポーツ指導を行う。
・選手派遣は難しいと考えているが、アカデミーコーチ、アンダー18 のスタッフなどでの対応も考えている。

◎さが桜マラソンについて

・３月１９日の桜マラソンオンライン記念イベントには、トップパラアスリートの話を聞く貴重な機会であったが、観客が少なく、もっと宣伝していいと感じた。

◎学校部活動の地域以降について

・令和５年から移行が始まり、現在指導に当たっている先生を社会体育の指導者にするという話があるが、ハードルは下がってこないと思う。
・佐賀市も、学校や教育委員会と連携をとりながら、先生たちが、抵抗なく、地域の社会体育指導にあたれるような指導、またはその接点を設けていただきたい。
・県教育委員会は、地域総合型スポーツクラブや既存の社会体育クラブに先生が指導者として入るなどのパターンをいくつか考えている。
・市の地域総合型スポーツクラブとの連携や地域の特性に合わせて、県の教育委員会を中心に話が進んでいる。

◎施設の適正配置について

・成果目標を達成するには、スポーツが嫌いな人、できない人にスポーツをさせることが重要であり、スポーツを嫌いな人に運動してもらうためには、ちょっとした仕掛けがあれば良いと思う。スポーツ施設についても、普段スポーツをしない人が気軽に立ち寄れるような適正配置を検討してほしい。

・スポーツパーク川副のプールが老朽化しているため、スケートボード等の施設を作ることについて、以前意見があったがどうなったか。

（事務局）

・イベント終了後のアンケートの項目に追加するなど、状況把握に努めたい。

・施設の集約・統廃合によって一番身近なスポーツ施設がなくなってしまうことも起こり得る。公共施設は事前に予約・調整が必要であり、料金納付などの手続きが必要となるものも多い。ご指摘いただいた点も視野に入れ、今後の再配置の具体的な計画を作っていきたい。

・スポーツパーク川副のプールは、わかくす国体の水球で利用した 50 メートルプールで、老朽化が進んでいる。また、屋外プールが、夏場に限定された使い方をせざるを得ない状況であるため、適正配置について引き続き検討していく必要があると考えている。

◎その他

・スポーツ庁の調査では、スポーツ実施率が 6 割を超えているが、家の階段の上り下りも運動に含めているので注意が必要である。

・公民館長や自治会長にスポーツを通したまちづくりに興味をもってもらい、意見交換をやることも必要ではないかと思う。

・少年スポーツ指導者資格取得に補助について、補助の範囲を広げることを検討してほしい。

・公民館の空き状況確認や予約がシステム化された。学校体育施設の利用についても、空き状況確認や予約がシステム化されれば便利になるのではないか。

10　問い合わせ先

佐賀市　　地域振興部　スポーツ振興課
担当者　　副島
電話番号　０９５２－４０－７３６０